

## 安全データシート (SDS)

作成・改訂：2022年04月01日

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 ターピースパッタシート  
 供給者の会社名 萩原工業株式会社  
 担当部門 合成樹脂事業部門 製造本部 製造部 産業資材品質向上課  
 住所 〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通一丁目4番地  
 電話番号 086(440)0820  
 推奨用途及び使用上の制限 産業資材

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 本製品は、GHS分類における危険有害性区分に該当しない。  
 GHSラベル要素 本製品は、GHS分類における危険有害性区分に該当しない。  
 危険性 通常は特に問題無いが、製品内部にあるガラス繊維は静電気を帯び易い性質があり、静電気アークによる火種になる可能性がある。  
 有害性 もしもガラス繊維が露出した場合は、静電気に注意を要す。  
 通常は特に問題無いが、もしもガラス繊維が飛散して人体に接触すると、目、喉、鼻などに一時的にかゆみや痛みを引き起こすことがある。  
 環境影響 野外に露出した場合、鳥等の動物が飲み込み窒息する可能性があるため、廃棄や露出には注意を要す。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

成形品

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (wt%)	化学式又は構造式	官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	CASNo
ガラス	約57	—	対象外	65997-17-3
雲母	約28	—	対象外	—
シリコーン	約15	—	非公開	非公開

## 4. 応急措置

製品形状がシート状であり、通常使用の場合は該当しないが、加工により粉砕等を行った場合は以下の処置を行う。

吸入した場合 清浄な水で10回以上うがいをする。  
 もしも鼻や喉に痛みが残る場合は、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 最初に流水で洗い、次いで石鹼を使い温水で洗う。  
 皮膚に刺さった時は、ガラス繊維を折らないように注意しながら毛抜きを使って抜く。  
 付着部を擦ってはいけない。  
 入浴もガラス繊維を除去する為に有効である。

眼に入った場合 直ちに清浄な水で15分以上洗い流す。

飲み込んだ場合 痛みが残る場合は、医師の手当てを受ける。  
 直ちに吐出させ、水で口を洗う。

## 5. 火災時の措置

消火剤 水、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂等。  
 使ってはならない消火剤 棒状注水  
 火災時の特有の危険有害性 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。  
 熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

特有の消化方法 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 初期の火災には水（霧状水）、粉末消火器などを用いる。  
 大規模火災の時は、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。  
 周囲の設備などに散水して冷却する。  
 移動可能な製品は速やかに安全な場所に移す。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護具を着用する。  
 風上から消火する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護処置」の項を参照)を着用し、  
眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

溶融物が付着した場合は、大量の水で冷却し、医師の診断を受けること。  
外観に変化が見られたり、痛みや刺激が続く場合は直ちに医師の診断を受け  
ること。

環境に対する注意事項

付近の着火源と成りそうな物を速やかに取り除くこと。  
環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法  
及び機材

漏出物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。  
危険でなければ漏れを止める。  
蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。  
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を  
防止し、雨に濡らさない。  
除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。  
少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空  
容器に回収する。後で廃棄処理する。  
乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。  
物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策  
安全取扱い注意事項

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。  
着火源に近づけない。  
使用前に使用説明書入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
取扱い後は手をよく洗うこと。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」の項を参照。

保管

安全な保管条件

保管場所周辺では火気厳禁とする。  
直射日光を避け換気の良い屋内で保管する。  
強酸化剤(ハロゲン、過氧化物等)の近くには保管しない。

安全な容器包装材料

消防法で規定されている容器を使用する。  
国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

通常は特に問題無いが、切断等によりガラス繊維粉塵が発生する場合は、局所  
排気装置を設置する。

許容濃度  
設備対策

粉塵が発生する際の管理濃度は、2.9mg/m<sup>3</sup>。  
ガラス繊維の吸入性粉塵の場合、2.0mg/m<sup>3</sup>(日本産業衛生学会勧告値) 通常の  
取扱いでは、特別な設備対策や保護具の必要はなし。  
粉塵が発生する場合は、手袋、保護眼鏡、防塵マスク、長袖上着、長ズボンを着  
用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

物理状態

固体(シート状)

色

グレー色

臭い

ほとんど無臭

融点

製品としての情報なし(参考:ガラス繊維の軟化点 約840℃)

密度及び/又は相対密度

製品としての情報なし(参考:ガラス繊維の密度 約2.6)

溶解度

水に不溶

爆発下限界及び爆発上限界/

製品としての情報なし

可燃性

あり(ガラス繊維に含まれる集束剤や表面処理剤)

引火点

製品としての情報なし

自然発火点

製品としての情報なし

分解温度

製品としての情報なし

pH	製品としての情報なし
動粘性率	製品としての情報なし
蒸気圧	製品としての情報なし
相対ガス密度	製品としての情報なし
粒子特性	製品としての情報なし
酸化性	なし

---

#### 10. 安定性及び反応性

反応性	通常の見扱ひ条件下では安定である。
化学的安定性	通常の見扱ひ条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の見扱ひ条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	特になし
混触危険物質	製品としての情報なし

---

#### 11. 有害性情報

急性毒性（経口）	製品としての情報なし
急性毒性（経皮）	ガラス繊維自体は物理的刺激性あり
急性毒性（吸入）	製品としての情報なし
皮膚腐食性／刺激性	製品としての情報なし
眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	製品としての情報なし
呼吸器感作性	製品としての情報なし
皮膚感作性	製品としての情報なし
生殖細胞変異原性	製品としての情報なし
発がん性	製品としての情報なし
生殖毒性	製品としての情報なし
特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	製品としての情報なし
特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	製品としての情報なし
誤えん有害性	製品としての情報なし

---

#### 12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 （短期／急性）	製品としての情報なし
水生環境有害性 （長期／慢性）	製品としての情報なし
	但し、海洋生物や鳥類が摂取することを防止するために、海洋や水域での投棄、放出はしない。
残留性・分解性	製品としての情報なし
生体蓄積性	製品としての情報なし
土壌中の移動性	製品としての情報なし
オゾン層への有害性	製品としての情報なし

---

#### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

---

#### 14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	該当しない
海洋汚染物質	該当しない

MARPOL73/78付属書ⅡおよびIBCコードによるばら積み輸送海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	該当しない
国内規制	
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない
陸上規制情報	消防法における指定可燃物に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
緊急時応急処置指針番号	なし
その他	水濡れ、異物混入及び荷崩れ防止措置を行う。 包装を傷付けたり、破袋させるような乱暴な取扱いは厳禁。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	「3. 組成及び成分情報」に記載。
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	指定可燃物（合成樹脂類 3,000kg）
化審法	該当しない

## 16. その他の情報

参考文献	JIS Z 7252：2019「GHSに基づく化学品の分類方法」 JIS Z 7253：2019「GHSに基づく化学品の有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）」 国連GHS文書 改訂8版（2019年） 独立行政法人 製品評価技術機構のGHS分類結果データベース 化審法データベース（J-CHECK） 原材料メーカーの安全データシート（SDS）
その他	本SDSは、JIS Z 7253：2019に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分でない可能性がありますので、取扱にはご注意ください。 本SDSの記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更して下さい。 また、注意事項等は通常の取扱を対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全策を実施の上、お取り扱い願います。